

(第3種郵便物認可)

SDGsテーマ 鯖江でシンポ 女性活躍に世界視野を

国連永久大使招き 県内の取り組み発表

国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」をテーマにしたシンポジウムが7日、鯖江市響陽会館で開かれた。国連永久大使で女性問題の第一人者アンワル・K・チャウドリー氏（76）＝バンングラデシユ出身＝を招き、県内企業や大学の関係者が女性の活躍推進への取り組みを発表。「世界的な視野で考え、地域で行動する」をテーマに、出席した約350人は自分事として行動する意識を高めた。

（杉本拓磨）



↑SDGs推進へ意識を高めたシンポジウム7日、鯖江市響陽会館
↓演説するチャウドリー氏

鯖江市が本年度、内閣府の「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」に選定されたのを受けて開催した。チャウドリー氏のスピーチの後、女性活躍推進に取り組む5団体の代表がそれぞれの取り組みを発表。これを受けて、チャウドリー氏と牧野百男市長、市と女性活躍推進

事業に取り組む全身脱毛サロン運営のウイエリス（東京）の佐伯真唯子社長が意見を交わした。

鯖江市内にサテライトオフィスを構えるウェブ業務などの「LIFULL F&M（ライフル・ファミ）」（東京）は、働く母親を応援する環境整備について発表。同社の秋庭麻衣代表は「子どもの成長に合わせた働き方の提案が重要」と強調した。仁愛大は、皆が喜ばしやすいまちを学生が考える「SDGs実践者の育成」事業を披露した。

発表後、佐伯社長は「各団体とも自分たちの強みを生かした取り組みが素晴らしい」と評価。牧野市長は「女性活躍なくしてSDGs達成はない。そのための環境整備には男性の理解が最も重要だ」と呼び掛けた。

チャウドリー氏は5日からの市内視察も振り返りながら「鯖江の女性、若者に熱意を感じた。国連の会議の場で鯖江のことを紹介していきたい、地方でも世界のモデルケ

ースになると信じている」と話した。
最後はSDGsの理念に賛同する企業、団体の代表や地元の子どもら約40人が登壇し、持続可能なまちづくりの実現を誓う「SDGsさばえ宣言」を行った。

気分は聖火ランナー 鯖江 トーチ持ち撮影会

来年に迫った東京五輪・パラリンピックの機運を高めようと、聖火リレートーチを持つ記念撮影ができるイベントが7日、鯖江市響陽会館で開かれた。家族連れらが実物のトーチを持ってポーズを決め、聖火ランナー気分を楽しんだ。東京2020五輪聖火リレ

